

議会運営委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 平成30年8月6日(月)から
平成30年8月7日(火)まで

- 2 視察先及び項目
 - (1) 静岡県藤枝市 決算特別委員会・予算特別委員会・常任委員会の
チェックサイクルについて
 - (2) 三重県鳥羽市 IT化の推進について

- 3 参加者 委員長 渡辺大三
副委員長 宮下誠
吹春やすたか
村山ひでき
白井亨
片山薫
河野律子
水上洋志
議長 五十嵐京子
副議長 森戸洋子
随 行 北村高(議会事務局長)
山浦勉(議会事務局)

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要	
【視察日程】平成30年8月6日	【視察先】静岡県藤枝市
【視察項目】決算特別委員会・予算特別委員会・常任委員会のチェックサイクルについて	
【視察目的】 決算特別委員会・予算特別委員会・常任委員会のチェックサイクルの先進事例を調査する。併せて議会改革全体についても調査する。	
【取組の概要】 1 予算・決算は各11人で構成する委員会で審査(委員は1年交代)(議長を含む全議員がいずれかに所属)。区分は各常任委員会の所管で分け(計3日)。別に総括質疑を1日。藤枝市議会の決算審査は7月の全事業(1,050)の点検シートの提出に始まる。その中から145事業を抽出し、さらに複数の議員が抽出した25事業について行政に調書を提出させる。その上で決算審査に臨む。行政には提言書を提出し、翌年度予算への反映を促す。なお、藤枝市議会では、常任委員会において、現年度予算の執行状況をリアルタイムにチェックしている。 2 藤枝市議会では平成27年度からタブレット端末を導入している。費用は全額公費であり、5年リース、25台分で月額78,840円である。議員、議会事務局、行政、いずれにも機能面、経費削減面でメリットがある。その他の議会改革に関しては「藤枝市議会改革への取り組み」に詳細がまとめられている。	
【所感、課題等】 委員1 ほぼ100%に近い確率で要望内容が次年度予算に反映しているということからも、決算審査後に機関としての議会が執行部へ提言を出す効果や影響力が強いことがわかる。導入後、これまでには感じられなかった決算審査の成果を実感されている。このサイクルの運用によって議員の仕事が増える懸念も伝えられたが、逆に成果の見えない決算審査をいつまでも続けることは、市民のためにならないため、我が市議会でも導入すべきである。 委員2 藤枝市では、全1,050事業の点検シートが行政から提出され、「7月」から決算審査が始まる。そして、議員の関心が高い25事業について提言書を取りまとめる。さらには、部局より現年度予算の執行状況の調書を提出させてチェックしている。「水も漏らさぬ体制」であり、小金井市においても、部局を甘やかさず、ただちに「事務事業評価シート」を作成させるべきであると考えているところである。	



委員 3

一般会計の1,050事業から25事業を抽出、決算審査で予算への考え方をまとめて、執行部に送付している。市長が一般会計の事業点検シートを提出していることが背景にあると思われる。また、常任委員会で予算の執行状況について審査を行い、決算と予算を同時並行的に審査し、予算への反映に努めている。議会として事業をしっかり評価し、予算への反映に努力する姿勢が参考になった。

委員 4

市議会活性化の取組の中でも、施策の事業評価により課題や成果を抽出し、政策へ反映を行う制度は進んでいると感じた。本来であれば、市議会の審議等を踏まえ執行側が対応していくというものであるが、多様多岐にわたる事業につき、そのすべてを市議会の審議の中で取り上げていくというのは困難であり、事業を抽出しつつ重点的に評価していくという仕組みは効果的である。タブレットの導入も後の課題点含めて参考になった。

委員 5

議員を半分に分け、必ず予算か決算の特別委員会に1年交代で所属させ審査するという方法は斬新。議会審査の効率化を考えるべき本市でも一考する価値はある。また、全事業1,050（平成29年度）の点検シートが7月には議会に提出され、重要テーマを抽出し決算審査に活かす手法は重労働に見えるが、議会本来の役割を考えれば検討すべきフローだ。タブレット端末機は安ければよいというものではないので公費で導入すべきでない。

委員 6

決算審査では、全職員による全事業1,050総点検シートと資料が7月に議会へ提出。7月下旬に145事業をピックアップし、25事業の事業評価決算審査用調書を依頼。8月下旬に調書が提出され、9月の決算審査へ。決算審査は所管の委員会ごと。新年度予算への提言を10月下旬に提出。ほとんどが予算に反映されるのがすごい。各会派の提言も同様に尊重される。IT化は各人使用のPC等を使うのが早道という率直な意見に同感。

委員 7

システムについては、長所短所があると感じたが、「行政は予算至上主義に陥らないように、しなければならぬ。」そのために何をすべきか議員が十分に議論し方向性を一つにしたところは見習うべきである。特に着目すべきは、報告書の作成方法である。「意見のまとめ方」がとても参考になった。「意見をまとめる」この言葉は現在の本市でどのような響きを持つのか深く考えさせられた。特に、視察報告書の作成方法にも再考を。

委員 8

決算審査は9月からではなく、実際の作業は7月から始まる。一般会計の全1,050事業の点検シートが、その時期に行政から議会に提出されることが背景にあり、大きな特徴と言える。その後、議会で145事業を抽出して更に25へとターゲットを絞り込む流れだが、聞けば、一部議員への作業負荷の集中が常態化している様子。全議員が絞り込み協議を含め、この手法に全面的に協力できるかが肝になると感じた。

視 察 概 要

【視察日程】平成30年8月7日

【視察先】三重県鳥羽市

【視察項目】IT化の推進について

【視察目的】

議会のIT化の推進について先進事例を調査する。併せて議会改革全体についても調査する。

【取組の概要】

- 平成23年に議会フロアをすべて無線LAN化し、共用iPadを導入したが、個人で持ちたいとの要望があり、平成24年に全議員が政務活動費で契約した。平成24年9月から許可なくすべての会議に持込みを可能とし、議場に46インチのモニター2台も設置して表示ができるようにした。導入成功のポイントとしては、①手段を目的化しない、②使わざるを得ない「仕掛け」が必要、③出来ることから始めると結論づけられている。
- グループウェアアプリを使用し、委員会資料の共有、カレンダー機能、テレビ会議などに活用している。
- 鳥羽市議会においては、ソーシャルメディアの活用も進んでいる。発信は担当事務局職員が行っている。
- 鳥羽市議会の議会報告会は、市民からの申込みに対応して議員を派遣する「出前」方式が採用されている。



【所感、課題等】

委員1

IT化の推進は離島を抱えている鳥羽市の環境要因もあるが、タブレットの政務活動費充当やその持込み、無線LANの整備、議会中継及びモニターの活用の仕方を聴く限り、議会活動成果のためにコツコツと改革に取り組んできたことがわかった。SNSの運用はネット環境の強靱化策の影響で自席にネット環境がない不便があるが、投稿そのもので事務局の負担はないという話も聴けた。目的ではなく手段としてこれらの活用を実現したい。

委員2

あらゆる分野で見習うべき改革が進んでいる。市民の求めに応じて議員を派遣するTOBAミライトーク、会派制の廃止、逆質問的な反問権の付与、県立図書館・市立図書館と議会図書室の連携、議会全フロアの無線LAN化、自席へのiPad持ち込み許可、議場でのパネル使用、ツイッターの活用などである。個人的には、議会図書室機能の強化に関心があるので、この点に関してはさっそく課題の抽出と整理を進めたい。

委員 3

IT化のみならず、通年会期、図書館との連携、議会報告会や意見交換会など議会の機能の強化や市民の理解を広げるための多彩な議会改革を行っている。そうした議会の姿勢が参考になった。IT化については、文書量削減に直接結びついていないようだが、議員活動の合理化や利便性、モニターを活用した質問などに役立っていると感じた。今後IT化の検討に当たり、目的を明確することが必要だと感じた。

委員 4

会派制の廃止や議決事件の追加、審議における反問権、通年会期の実施など特徴的な議会改革を行っている。また、小・中学生とのミライトークや議会報告会のほか、市議会も市長と同旨の市内ミーティングを実施し、市民意見の反映に力を入れており、地域特性による部分もあるが、大変参考になった。通年会期では、専決処分の取扱い等、法令面・運用面での慎重な検討も要するところ効果的・公立的な運営を主眼に置くことが重要である。

委員 5

議員定数を全14名まで削減した結果、会派制度を採用していないことに驚いたが、二元代表制から考えれば案外、効率的かもしれない。通年会期、参加可能な議員のみで開催される委員会、議会報告会のあり方を再検討した結果のTOBAミライトークなどユニークな施策は本市にとっても参考になる。また、タブレット導入による議場モニター画面の連携は視覚的にわかりやすく、まさに百聞は一見に如かず。即刻、本市でも採用すべき。

委員 6

鳥羽市議会のICT活用は主に事務局が動いていることが特徴。離島がいくつかあるのでサテライトで会議ができることが重要だったと聴く。全員協議会にインターネットの電話機能で参加する議員もいるのは驚きだ。全員で課題を把握することの重要性も語られた。今年からの取組である議会開放デーは小中学校に案内を出したが、その時点ではまだ予約は1人だけ。初めての試みにトライし続けている活発な議会であることに感銘を受けた。

委員 7

視察冒頭、説明議員がタブレットを持参して入場されたことが印象的だった。市域の立地や、県としてIT化を推進している背景も大きな推進力となったことは頷ける。ただ、運用や使い方に事務局が多く労力を要していることも事実である。議場での端末の使用についても議員各自のスキル次第と見受けた。TwitterとFacebookは同じ内容配信の理由は、「時間が無いので…」とのことだった。ペーパーレス化を導入の目玉としないことも参考になった。

委員 8

過去32年かけて議員定数を現行の14人まで半減させたことや、SNSを積極的に活用して若者層へも広報を拡大させたこと、荒天のため参集できない議員に対して委員会へWEB経由での参加を認めたことなど、野心的な取組は非常に印象に残った。注目していた本会議や委員会へのタブレット端末の持込みについては全面解禁になっており、一般質問でも議場のモニターへ映し出す利用ができるなど、我が市でも導入を推進したい。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 597,920円

〈内 訳〉 委員旅費 @50,755円 ×10人 = 507,550円
1人当たり旅費 交通費 30,155円
宿泊費 15,000円
日 当 5,600円

職員旅費 @48,755円 × 2人 = 97,510円
1人当たり旅費 交通費 30,155円
宿泊費 15,000円
日 当 3,600円

2 執 行 額 597,530円

〈内 訳〉 交通費 354,330円
宿泊費 180,000円
日 当 63,200円

3 差 引 残 390円

※ タクシー料金が予算額を下回ったため。